



高輪ゲートウェイシティ



TAKANAWA GATEWAY CITY



多機能施設が集積する
都市構造

「TAKANAWA GATEWAY CITY」は、主に5つの大型施設と4つの街区で構成されている。

オフィスやコンベンション機能を備えるツインタワー「THE LINKPILLAR 1（リンクピラー1）」「NORTH棟・SOUTH棟、泉岳寺駅そばの複合棟「THE LINKPILLAR 2（リンクピラー2）」、文化施設「MON Takanawa・The Museum of Narratives」、そして住宅棟「TAKANAWA GATEWAY CITY RESIDENCE」だ。

今回の「まちびらき」では「THE LINKPILLAR 1」が先行開業し、同時に高輪ゲートウェイ駅も全面オープンした。

駅南口には大規模広場「Gateway Park（ゲートウェイパーク）」が広がり、オープニングを記念して、フランスの建築家エマニュエル・ムホー氏によるアート作品「100 Colors no.53」が展示中だ。

100色の糸が織りなすトンネル型インスタレーションには、2025年から100年後までの年号が刻まれており、「時の流れ」をテーマにした幻想的な空間が広がる。

商業・文化・未来技術の
ハブとして期待

2025年秋から2026年春にかけて、リンクピラー両棟と「THE LINKPILLAR 2」では、ルミネ最大規模の商業施設「ニューマン高輪」も開業予定だ。

すでに「まちびらき」時には、「ニコライバークマン高輪」が「NORTH棟」エンタランスに先行オープン。デモンマーク出身のフラワーアーティストによる新たな拠点となる。

また、「NORTH棟」と「SOUTH棟」の間には、ASKA社が開発する陸空両用の「空飛ぶクルマ」ASKA A5の1/3スケールモデルも展示中。今後、この4人乗りモビリティを活用した国内観光サービスの実現が見込まれている。

さらに、ビジネス支援施設「LISH」や駅構内の4店舗も公開済みだ。

2026年春のゲートウェイ、様々なイノベーションが、高輪地域の新たな都市を取り組みが進行中。「TAKANAWA CITY」は一度の訪問で体験できない多層的な魅力と共生する持続可能なモデルケースとなり

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。
詳細はこちら▶